

①「好きな教科と嫌いな教科」 作文例①

「一段落目」好きな教科と嫌いな教科を簡潔に示す。
(例)

私の好きな教科は数学と歴史です。嫌いな教科は国語と技術・家庭科など副教科です。

「二段落目」好きな教科についての説明
(例)

数学がなぜ好きかというと、ただ一つの答えが論理的にはつきりと出てくるからです。数学では、基本的な計算の知識や公式、文章題の式の立て方などを覚えれば、あとは自分の頭の回転力が試されるだけで、あまりたくさん覚える必要がありません。ゲームに限りなく近い教科だと思います。数学の嫌いな人は、基本的な知識さえ覚えようとしなくて、面倒くさがり屋ばかりな気がします。また、逆に、理科みたいにかくさんのことを覚えるのが好きな人もいますが、こちらも私には理解できません。もう一つの好きな教科である歴史ですが、こちらははつきり言って学校の授業は眠たくなるだけで嫌いです。でも、歴史漫画や小説がとても好きな私にとって、歴史のテストで九十点以上をとるのは、造作もないことです。歴史の本を読んで、歴史上の事実を知ると、この世界や人間のことがよくわかってきます。私はまだまだ勉強が足りないと思うので、もっとたくさん歴史の本を読んでいきたいと思っています。ちなみに、地理は覚えることが多いので、あまり好きではありません。

「三段落目」嫌いな教科についての説明
(例)

次に嫌いな教科についてですが、国語は数学と違って、読解問題の答えがなんだかあやふやな感じがするので、好きになれません。本は好きな方で、国語の成績もそんなに悪くはないのですが、テストで時々とてもひどい点を取ることがあります。そういう時は、答え合わせをしても、なんで自分の答えが間違っているのか最後まで理解できません。特に、小説や詩の読解問題でそういうことが多いです。だいたい小説や詩なんて、読む方がどう感じようが、読者の勝手だと思います。百人いたら百通りの感じ方があるはずなのに、「この詩の特色として正しいものを選び」みたいな問題の存在がなんで許されるのか、理解に苦しみます。技術や家庭科に関しては、「実際の生活に必要な学科」などという人もいますが、あんなの家でお父さんやお母さんに教えてもらえば済むことだと思うので、やる意味が分かりません。私は結構料理はできる方で、カレーライスも肉ジャガも作れます。だけど、家庭科のテスト勉強を全くしないので、成績は悪いです。納得できません。学校の技術や家庭科の授業でちよつとやった程度では、実際に生活で必要になる力なんて身に着けられないと思います。よつて、技術も家庭科も、教科として廃止するべきだと思います。

「四段落目」結論・まとめ
(例)

これからも、好きな教科はやっぱ好きだし、嫌いな教科はやっぱ嫌いなままだと思いますが、それが私の個性なので、嫌いな教科を無理して好きになるつもりはありません。